

(要約版)

## 英語圏の絵本・児童文学におけるネイティブ・アメリカンの喫煙文化

助成研究者 鈴木宏枝 ((東京女学館大学) 英語圏文学・文化)

### 1. 目的

本研究は、ネイティブ・アメリカンの諸部族にとって重要な喫煙文化がアメリカの児童文学・絵本の中でどのように扱われているかを検討し、アメリカにおける先住民文化の受容について考察することを目的とする。

現在、アファーマティブ政策のもとで少数者への意識が高められ、ネイティブ・アメリカンや移民を扱う児童文学や絵本に注目が集まっている。しかし、自然と調和した郷愁的なネイティブ・アメリカンの昔話絵本や教育絵本には、WASPのアメリカを強化する意識が投影され、アメリカのマジョリティにとって心地よい世界が展開している。ネイティブ・アメリカンが真に尊重されているのかどうか、喫煙文化という切り口から検討し、アメリカ児童文学に潜むパワーの問題を明らかにする。

### 2. 方法

19世紀から20世紀半ばまでの作品については、入手可能なものの中からネイティブ・アメリカンの喫煙文化が描かれている児童文学・絵本を選んだ。20世紀後半の作品については、*Multiethnic Children's Literature* (Ramirez & Ramirez, 1994)や *A Broken Flute: The Native Experience in Books for Children* (Seale & Slapin, 2006)を参考に、ある程度の評価が定まっている作品を40冊程度選んだ。選んだ作品の中に、日常の喫煙や祭礼のカルメット(飾りのついた長いパイプで主に儀式に使う)を含むネイティブ・アメリカンの喫煙文化がどのように描かれているかを分析した。結果的に分析できた作品は以下の通りである。

Blake, John Lauris. *The Boy's Book of Indian Battles and Adventures: With Anecdotes about Them*. New York: James Miller, 1860. *Internet Archive*. 25 April. 2013. <<http://archive.org/details/boysbookofindian00blakiala>>.

DeHuff, Elizabeth Willis. *Taytay's Tales*. New York: Harcourt, 1922. Compiled. Audrey Skidmore, et al. Ed. Mary Mark Ockerbloom. *A Celebration of Women Writers*. 25 April. 2013.

<<http://digital.library.upenn.edu/women/dehuff/taytay/taytay.html#14>>.

---. *Taytay's Memories: Collected and Retold*. New York: Harcourt, Brace and Company, 1924.

Ellis, Edward S. *Outdoor Life and Indian Stories*. Philadelphia: L. T. Myers, 1912. *Internet Archive*. 25 April. 2013.

<<http://archive.org/details/outdoorlifeindia00elli>>.

Gorsline, Marie and Douglas, *North American Indians*. New York: Random House, 1977.

Sewall, Marcia, *People of the Breaking Day*. New York: Aladdin, 1990.

Twain, Mark. *The Adventures of Tom Sawyer*, 1876. New York: Modern Library, 2001.

### 3. 結果と考察

20世紀前半までの作品において、ネイティブ・アメリカンの喫煙文化は、ニューベリー賞候補作になった Pueblo 族の民話集 *Taytay's Tales*(1922)などのいくつかの本の中では適切に描かれていた。特に、白人入植者とネイティブ・アメリカンの物理的な距離が近かった時代には、少年向けの本の中で、カルメットがネイティブ・アメリカンの葬礼に用いられることが解説されていたり、イロコイ連合を設立することを呼びかける Hiawatha の絵にカルメットが握られていたりする。

他方で、主流の児童書の中では、恣意的に用いられることもあり、たとえば、*The Adventures of Tom Sawyer* (1876) で Tom はネイティブ・アメリカンの部族連合であるシックス・ネイションズを倒し、敵の「頭の皮をはぐ」遊びをしたあと、休戦協定として Huck のパイプを回し飲みしている。

児童文学分野でネイティブ・アメリカンに関する作品の出版点数が多くなったのは、1970年代のレッド・パワー運動以降である。しかし、こうした現代のネイティブ・アメリカンの絵本は、世界的な禁煙運動という政治の影響を受け、特に、子どものための本であるゆえに厳しい検閲を受けることになる。現在出版されている民話や昔話の再話絵本、ネイティブ・アメリカンを主人公にした児童文学、教育絵本など、ある程度評価の定まった40冊程度を調査したところ、喫煙文化が描かれているのは、教育目的の *North American Indians* (1977) と *People of the Breaking Day* (1990) の2冊だけであった。この2冊は、喫煙文化を適切に描き、読者の理解を促進するが、残りの大多数の絵本においては、喫煙文化は省略されている。ここには、おそらく1980年代以降の禁煙運動の政治性が検閲の問題として絡んでいる。

ネイティブ・アメリカンを描いているというポーズをとりながら、禁煙運動の政治に左右され、ごく限られた本の中でしかカルメットや喫煙文化を扱わないとしたら、それは新たな植民地化であり、ネイティブ・アメリカンをいかに自然と調和さ

せて美しく描いていたとしても、そのテキストはすべて白人の子どもに向けたものであることが露呈する。

土地からもぎはなされ、アメリカという国家に与する資源となり、文化を表す絵本においても検閲削除される「タバコ」は、白人の政治に左右されるネイティブ・アメリカンの現在にも重なる。